

# I 令和元年度事業報告書

(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで)

当財団は、埼玉会館及び彩の国さいたま芸術劇場の指定管理者として、平成27年度から5年間の指定を受け、質の高い舞台芸術作品を創造、発信するとともに、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を実施してきた。

令和元年度は、彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』をシリーズ芸術監督吉田鋼太郎演出、阿部寛主演により上演した。また、「さいたまゴールド・シアター」、「さいたまネクスト・シアター」による公演を実施し、故蜷川幸雄芸術監督が築き上げた「彩の国さいたま芸術劇場」のブランド力を発揮させることができた。

また、財団がこれまで培ってきたネットワークを活かした海外舞踊公演の招聘や音楽のシリーズ公演を開催した。トップアーティストから気鋭の若手まで起用し、子どもと大人が一緒に楽しめる作品も提供するなど、多様なニーズに応じて鑑賞者の拡大につながった。さらに、県内の小中学校を対象としたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE」、「MEET THE MUSIC」を引き続き実施したほか、若手ダンサーの育成を目指す「さいたまダンス・ラボラトリ」を開催し、小中学生が芸術文化に親しむ機会を提供するとともに、次代を担う人材の育成にも努めた。

このほか、2016年に開催した「1万人のゴールド・シアター2016」公演の出演者を母体とした芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」の演劇ワークショップと成果発表を県の委託事業として実施した。高齢者の舞台芸術表現の可能性を提示し、高齢者がよりいきいきと暮らしていく社会の実現に向けて、芸術が大きな力を発揮する可能性を強く感じさせる機会を創出した。

施設利用に関しては、安全・安心に万全を期した適正な管理を行うとともに、アンケートの意見等に迅速に対応したほか、財団ホームページ更新に伴い利用者への広報を充実させるなど、利用者サービスの更なる向上に努めた。日本モダニズム建築の旗手である前川國男設計の埼玉会館では、ブランディング事業として前川國男建築セミナー第6回「前川建築のホールとその響きを探る」を開催し、多くの方に埼玉会館大ホールの魅力を再発見していただくことができた。また、地元浦和地域の団体との共催による事業を実施し、地域の賑わいの創出にも貢献した。

なお、令和2年2月下旬以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴い、全ての主催公演を中止としたほか、施設の貸館利用についても、各主催者に協力を求めた結果、中止や延期等の対応が多くとられた。

## 1 事業の概要

### (1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

#### ア 自主企画公演等及び国内外との交流 (53 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界トップレベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館では地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、8事業（演劇1事業、舞踊1事業、音楽5事業、その他1事業）の一部公演を中止した。

#### (ア) 彩の国さいたま芸術劇場 (48 事業)

##### a 演劇部門

蜷川レガシーを継承しつつ世界トップレベルの芸術作品を創造、発信するとともに、若手演出家の活用や子どもたちの鑑賞機会の確保に努めることで、鑑賞者の更なる拡大につながった。

当劇場の看板シリーズである「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ2代目芸術監督吉田鋼太郎のもと、第35弾として歴史劇『ヘンリー八世』（演出・出演：吉田鋼太郎、主演：阿部寛）を上演した。公演に加え、第一線の英文学者らによる『「ヘンリー八世」徹底勉強会』と題した連続講座や本公演開場前に無料ライブ（さいたまアーツシアター・ライブ!!）を実施したほか、シェイクスピアの歴史劇に焦点を当てた企画展示などの関連企画を行い、「蜷川レガシー」の継承を印象づけた。

次代を担う演劇人の取組としては、「マームとジプシー」の藤田貴大による新作『CITY』を上演した。演劇のみならず、音楽やファッション、文学といった様々なジャンルから注目を集める藤田作品の上演により、若年層が多く訪れるなど次世代に向けた観客育成につながった。

児童向けの演劇作品としては、子どもから大人まで楽しめる児童演劇公演『めにみえない みみにしたい』の再演および全国巡演を実施した。東松山市でのアウトリーチ公演をはじめ、全国13会場で巡演するなど、当劇場で制作した質の高い作品を県内外の多くの人々に届けることができた。

若手演劇集団さいたまネクスト・シアターは、昨年度好評を博した「世界最前線の演劇シリーズ」の第3弾としてヨルダンの劇作家ガンナム・ガンナムによる『朝のライラック』を新進気鋭実力派の眞鍋卓嗣（俳優座）の演出で上演した。ニュースでは届けられない社会問題について舞台演劇を通じて観客の心に深く響かせる満足度の高い作品となった。なお、本作品は「小田島雄志・翻訳戯曲賞」を受賞している。

また、開館25周年記念としては、故蜷川幸雄芸術監督の半生をモチーフにした未発表戯曲『蜷の綿-Nina's Cotton-』のリーディング公演及び関連企画「Tribute to 蜷川幸雄」を実施した。リーディング公演は、故人の助

手を長年務めた井上尊晶の演出、「さいたまゴールド・シアター」、「さいたまネクスト・シアター」メンバーにより上演。世界的演出家であり当劇場の発展に多大な尽力をされた故人の偉業を改めて振り返り、芸術文化に対する県民の関心を高めた。

「松竹大歌舞伎」は、(公財)熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで実施し、県北地域に伝統芸能鑑賞の機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
藤田貴大新作公演『CITY』	5月	大ホール
児童劇『めにみえない みみにしたい』	7月	小ホール
さいたまネクスト・シアター×世界最前線の演劇3『朝のライラック』	7月	大稽古場
松竹大歌舞伎	7月	熊谷文化創造館さくらめいと
『蝻の綿-Nina's Cotton-』	10月	大ホール
彩の国シェイクスピア・シリーズ第35弾『ヘンリー八世』 【一部（3日間4公演）中止】	2月	大ホール

## b 舞踊部門

世界的に活躍する振付・演出家の最新作を招聘したほか、国内外で活躍するアーティストの新作制作、普及教育を目的とした一流の振付家によるワークショップを開催するなど、多彩な身体表現の可能性を探る作品及び体験の機会を提供した。

主催公演として、国内からは、埼玉では13回目の登場となる近藤良平が率いる人気のダンスカンパニー「コンドルズ」による新作公演『Like a Virgin』を上演した。海外からは、ギリシャを代表する演出・振付家ディミトリス・パパイオアナウを迎え、2017年初演の話題作『THE GREAT TAMER』を国内初上演した。世界的に活躍する注目のアーティストの作品に触れる貴重な機会を国内でいち早く提供することで、「ダンスの殿堂埼玉」と言われる高い評価の維持・拡大につながり、県内外からも多くの鑑賞者が訪れた。

一方、子どもと大人が一緒に楽しめる人気ダンス・シリーズ「日本昔ばなしのダンス」を秩父市等で上演し、親子の対話の機会やダンスに対する興味を深めるきっかけづくりを提供した。

また、育成事業として、若手ダンサー・振付家の育成を目的とした「さいたまダンス・ラボラトリ」を昨年度に引き続き実施した。ネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーで世界を舞台に活躍する小尻健太・湯浅永麻を講師に迎え集中ワークショップを実施し、明日を担う若手ダンサーの育成・支援に貢献した。

そのほか、平成 26 年度から実施している振付家、ダンサーによる、県内中学生を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」を引き続き実施した。身体表現を通じて仲間とコミュニケーションを取っていく大切さを学べる機会を提供することで、舞台芸術の理解促進が図れた。

共催事業として、マーク・モリス・ダンス・グループによる「<Dance for PD®>パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム」指導者向けのワークショップと広く一般を対象にしたシンポジウムを開催した。また同時に同ダンス・グループ及びスターダンサーズ・バレエ団との協働で患者向けの体験クラスを実施し、いずれも患者団体や芸術・福祉・医療分野の従事者をはじめ多くの方から高い関心が寄せられた。

さらに、振付家金森穰が率いるりゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館を拠点とするダンスカンパニー「Noism」の新作を上演し、県民に多様な舞台芸術に触れる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2019 『Like a Virgin』	5月	大ホール
ディミトリス・パパイオアヌー 『THE GREAT TAMER』	6月	大ホール
さいたまダンス・ラボラトリ Vol.2 (小尻健太・湯浅永麻による WS)	8月	大稽古場
バットシェバ舞踊団 『VENEZUELA』【中止】	3月	大ホール
日本昔ばなしのダンス地方ツアー	9月・2月	仙台・秩父
MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる！	通年	県内中学校
【共催】 <Dance for PD®> ワークショップ&シンポジウム	5月・6月	中稽古場1 映像ホール
【共催】 Noism	1月	大ホール

### c 音楽部門

音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップアーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施するとともに、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につながった。

世界最高級の演奏を鑑賞できる機会として、毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演のほか、木管五重奏のアンサンブル・ウィーン=ベルリンやヴァイオリニストの佐藤俊介率いるオランダ・バッハ協会管弦楽団公演を実施した。バッハ・コレギウム・ジャパン公演に際しては関連レクチャーを行い、アンサンブル・ウィーン=ベルリン公演に際してはメンバーによるオーケストラ・クリニックを行った。本格的なクラシック音楽を埼玉の地で楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーテ

ィストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の素晴らしさを国内外に発信することができた。

家族で楽しめる公演として、テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズによる美術と音楽がコラボレーションした「うつくしいまち」を開催し、子どもたちに音楽に対する興味を深めるきっかけづくりを提供した。

13年目を迎えた、選りすぐりの若手ピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、過去の出演者が再登場するアンコール・シリーズに萩原麻未を迎えたほか、オランダ出身の兄弟デュオ、ルーカス&アルトゥール・ユッセンによるシリーズ初のピアノデュオ公演を実施した。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次世代の発掘の支援に貢献した。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用した無料のミニ・コンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、オルガンを通じて音楽の普及啓発を図る「みんなのオルガン講座」、演奏とレクチャーを通じてオルガンや古楽について学ぶ「大塚直哉レクチャー・コンサート」を開催した。

普段クラシックに馴染みのない方や劇場の存在を知らない方にも、気軽に劇場に足を運ぶきっかけを提供することで、多くの方々に芸術文化や劇場の活動・魅力についての理解促進を図ることができた。

そのほか、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施した。鑑賞機会の少ない県北部、秩父地域を中心に事業を実施することで、裾野の拡大につながった。

また、4年目を迎える共催事業として、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを開催し、「人と音楽をつくりあげる喜び」を感じる機会を提供した。

事業名	実施時期	会場
バッハ・コレギウム・ジャパン J. S. バッハ 《マタイ受難曲》（関連レクチャーも開催）	4月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.37、アンコール! Vol.8) 【Vol.38は中止】	6月・11月	音楽ホール
大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律” Vol.2・Vol.3	7月・2月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
テアトロ・ムジーク・インプロヴィーズ 「うつくしいまち」	WS：7月 公演：8月	小ホール
アンサンブル・ウィーン=ベルリン (県内の高校生を対象としたオーケストラ・クリニック)	9月	音楽ホール
佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団	10月	音楽ホール

アンドラーシュ・シフ ピアノ・リサイタル【中止】	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート【3/21公演は中止】	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC ～アーティストが学校にやってくる！ 【2/29開催分は中止】	通年	県内小・中学校
【共催】ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場 (関連企画 ピアノデュオ はじめのいっぽ)	8月 7月	音楽ホール他

#### d その他

「彩の国さいたま寄席」(年4回)を開催するとともに、彩の国落語大賞の授与など若手落語家の発掘・支援に貢献したほか、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」を実施した。

また、県内高等学校の生徒及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の講座への協力や大学生インターンシップを受け入れた。

地域との連携を深めるとともに、公共劇場や舞台芸術への理解を深め、さらに、地域における芸術活動を担う人材育成に貢献することができた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
劇場体験ツアー	8月	大ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
バリアフリー・セミナー【3/24のセミナーは中止】	3月	映像ホール
舞台技術講座	8月～3月	小ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他

#### (イ) 埼玉会館 (5事業)

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を、人気の指揮者 下野竜也と日本を代表するピアニスト 小山実稚恵を迎えて実施した。また、誰でも気軽に一流の演奏を楽しめるランチタイム・コンサートを3回開催した。

日本のトップオーケストラの演奏と身近に親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供するとともに、新たな鑑賞者層を開拓することができた。また、これらの事業は、地元飲食店等とのタイアップなど、より地域と密着した展開をし、地域の活性化ができた。

さらに、ほぼ隔年で開催している、野村万作・萬斎による狂言公演を1月に実施し、大変好評を博した。

事業名	実施時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート（第39回～第41回） 【第42回は中止】	6月～12月	大ホール
NHK交響楽団 下野竜也（指揮）小山実稚恵（ピアノ）	11月	大ホール
狂言「万作・萬斎の世界」	1月	大ホール

## イ 埼玉の魅力を発信する文化プログラム

### （ア）障害者ダンスチーム「ハンドルズ」

埼玉県障害者福祉推進課との共催で制作・上演してきた「近藤良平プロデュース 障害者ダンスチーム ハンドルズ」については、平成29年度の金沢公演、平成30年度の静岡公演に引き続き、『波に乗り ゆらりゆらりと どこ行くの』千葉公演を埼玉県の委託事業として行った。

作品の芸術性や独創性を重視し、障害者と健常者が一緒になって舞台芸術を楽しむことにより、「心のバリアフリー」の浸透を図るとともに、「ハンドルズ」を活用した埼玉県のPRに貢献した。

### （イ）高齢者の舞台芸術参加促進プログラム

高齢者の舞台芸術参加促進プログラムとして、「ゴールド・アーツ・クラブ」の演劇ワークショップと成果発表を県の委託事業として11月・12月に実施した。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催予定であった令和2年度において、「オリンピック・パラリンピック文化プログラム」関連事業として「ゴールド・アーツ・クラブ」の第2回公演を検討していたため、その準備として実施した。

同じく県のオリンピック・パラリンピック文化プログラムに向けた準備事業として、「パーキンソン病患者のためのダンス・ワークショップ」を10月・11月・1月・2月の計4回（新型コロナウイルス感染症の影響により3月は中止）実施し、高齢者の舞台芸術参加の裾野を広げる成果を得た。

## ウ 企画展示・広報等

### （ア）企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

#### a 『彩の国さいたま芸術劇場25周年記念企画展』

（10月1日～15日 ガalleryで開催）

##### （a）「蜷川幸雄クロニクル」

“世界のNINAGAWA”と呼ばれ、当財団芸術監督を務めた蜷川幸雄の幼年期からの風景や、彼の演出家人生に重要な影響を及ぼした家族、仲間と

の出会いを蜷川幸雄の原点となった場所や過ごしてきた時代を写真で巡る企画を実施した。

(b) 「彩の国シェイクスピア・シリーズ」出演者手形・サイン色紙展

さいたま市ではJR与野本町駅から彩の国さいたま芸術劇場までの経路を”アートストリート”として整備し、与野西中学校前に「彩の国シェイクスピア・シリーズ」出演者の手形とサインのレリーフを設置しており、彩の国さいたま芸術劇場25周年を記念しそのレリーフの原画となった色紙を展示した。

b 『ヘンリー八世企画展』王冠変遷～「エドワード三世」から「ヘンリー八世」まで  
(2月11日～3月1日 ガレリアで開催)

『ヘンリー八世』の公演に合わせて、彩の国シェイクスピア・シリーズで上演した歴史劇の存在した人物や同じ人物を作品ごとに異なる俳優が演じる妙を東京大学教授 河合祥一郎氏の解説と彩の国シェイクスピア・シリーズの舞台写真で迎える展示を開催した。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころを、より分かりやすく伝えるとともに、財団の各種案内等の様々な情報を掲載し、読みやすく、かつ充実した内容となるよう、編集を行った。

- |           |                                      |            |
|-----------|--------------------------------------|------------|
| a 発行回数、部数 | 年6回                                  | 各12,000部発行 |
| b 配布先     | 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など |            |

(ウ) メンバーズ事業

会員に財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」を送付するほか、顧客の定着化とチケットの販売促進のため、主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行った。

メンバーズ会員数 4,800人(令和2年3月末現在)

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図った。

サポーター会員数 120社(者)(令和2年3月末現在)

## エ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

	資料総数	左記にかかる分野ごとの内訳				
		演劇	舞踊	音楽	映画	その他
書籍	11,348点	2,254点	613点	2,796点	713点	4,972点
CD	11,071点	9点	77点	10,584点	0点	401点
映像	3,020点	428点	488点	1,719点	173点	212点

## (2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、多様なニーズに対応するとともに、施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設の貸与を行った。

10月1日の消費税改定に伴い利用料金を改定した。2月中旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ホールをはじめ施設利用の中止が相次いだが、利用変更や利用料金返還など利用者の混乱が生じないよう対応した。

## ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの充実に努めた。

ホール利用においては、貸館セクションと舞台技術セクションの連携を図ることで、技術的な提案を実施するなど、利用者の問い合わせや要望に対し、適切かつ迅速に対応した。また、「劇場等演出空間の運用及び安全に関するガイドライン」を引き続き配布し、利用者の安全に対する意識向上にも取り組んだ。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、他県自治体や文化施設、県内大学、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、財団ホームページ内の施設利用専用ページにおいて、施設利用者への各種案内を即時に行ったほか、ホール催物のチラシを掲載するなど、利用者サービスの向上を図った。

一方、光熱水費削減のため空調機の停止や間欠運転（電力ピーク時）、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間の調整などの節電に努めた。

総来場者数 334,117人

#### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	1,100日	782日	71.1%
稽古場・練習室	3,784日	3,434日	90.8%
計	4,884日	4,216日	86.3%

#### イ 埼玉会館

埼玉会館の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見等を踏まえた改善を実施するなど、利用者サービスの向上に努めた。また、利用促進を図るため大型催事の誘致を進めた。

施設の安全管理の徹底とより充実した利用者サービスを提供するため、財団職員及び施設管理・レストラン等のスタッフによる全体会議を毎月実施し、管理運営上の課題や利用者の要望などを共有し、全員で連携して取り組んだ。

また、施設の利用促進を図るため、ホール抽選会の落選者にキャンセル情報を随時提供した。このほか、利用者の負担軽減のため、展示室、会議室の抽選に先立って、利用希望を受け付ける期間を設け、利用希望が重複した場合は事前に調整を行い、利用者が受付開始日に抽選のための来館をせずにするよう図った。そのほか、会議室においては、Wi-Fiサービスの提供により、利用者の利便性向上を図った。

さらに、フェイスブック、インスタグラムに加え、新たにツイッターを開設し、SNSを活用した情報発信による利用促進を図った。

総来場者数 641,662人

#### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数	利用日数	利用率
ホール	660日	593日	89.8%
展示室	979日	568日	58.0%
会議室	6,205日	4,774日	76.9%
計	7,844日	5,935日	75.7%

### (3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施した。

#### ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会

及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

#### イ 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、有料駐車場を管理運営した。

平成 29 年度から、レストラン運営について、これまでの県の行政財産使用許可から当財団による管理に切替え、レストラン営業に加え、施設利用者の要望に沿った懇親会やパーティーの開催、弁当・コーヒー等のケータリングなどサービスの充実に努め、施設の賑わい創出を図った。

#### ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等について、一般の施設利用との調整を図りながら、積極的に受け入れたほか、彩の国さいたま芸術劇場では、タクシー運行業者と契約し、タクシー電話を設置した。

#### エ 埼玉会館のブランディング事業

全国に誇れる価値をもつ「埼玉会館の歴史と建築」を発信するため、ブランディング事業として、建築セミナー「前川建築のホールとその響きを探る」を 4 月に大ホールで開催した。

「世界自閉症啓発デー」におけるブルー・ライトアップ（4 月）、「児童虐待防止推進月間」、「女性に対する暴力をなくす運動」のオレンジ&パープル・ライトアップ（11 月）に協力するなど、前川建築や埼玉会館への関心が高まるよう図った。また、埼玉会館の趣を好んだファッション誌などの撮影利用も積極的に受け入れ、延べ 6 誌に掲載された。

#### オ 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

彩の国さいたま芸術劇場では、地元のさいたま市中央区美術家協会に協力し、3 月にギャラリー及び情報プラザを会場として美術展が開催された。これまで劇場に足を運ぶ機会がなかった客層の来場があり、美術作品への触れ合いを通じて劇場空間に親しんでいただくことで、地域の人々に劇場に対する理解と親しみを深めてもらう機会となった。

埼玉会館では、地域社会との連携により賑わい創出と活性化を図るため、町内会のお祭りへの協力、商店会と合同で「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行った。

また、さいたま国際芸術祭 2020、美術と街巡り事業と連携して「公共空間と美術－埼玉会館エスプラナード展」を開催し、エスプラナード（屋外）への美術作品展示を展開し、施設の公共空間を活かした賑わい創出を図った。

## カ 劇場広報事業

彩の国さいたま芸術劇場では、舞台芸術や劇場への関心を高めてもらうとともに、施設利用の推進を図るため、広報の一環として劇場見学ツアーを実施した。

## 2 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を6回（4月、5月、6月、10月、3月〔2回〕）、評議員会を4回（6月、11月、3月〔2回〕）開催した。

## 3 役職員に関する事項

### (1) 役員数（令和2年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1 人	1 人	
専務理事	1 人	—	1 人	県派遣 1 人
理 事	2 人	4 人	6 人	県派遣 1 人
監 事	—	2 人	2 人	
計	3 人	7 人	10 人	県派遣 2 人

### (2) 職員数（令和2年3月31日現在）

	常 勤	非常勤	計	備 考
部長・館長	2 人	—	2 人	
参 事	3 人	—	3 人	
グループリーダー 課長・副参事	4 人	—	4 人	県派遣 1 人
主 査	15 人	—	15 人	県派遣 4 人
主 任	16 人	—	16 人	
主 事	4 人	—	4 人	
技 師	2 人	—	2 人	
プロデューサー	—	1 人	1 人	
参 与	—	1 人	1 人	
その他非常勤職員	—	1 人	1 人	
計	46 人	3 人	49 人	県派遣 5 人